

Ⅲ 学校生活について

1 生徒心得5か条

- (1) 社会の一員としての自覚をもち、決められたルールを遵守する。
- (2) 自分と他者の身体・心（感情・知性）を尊重し、適切な判断を行う。
- (3) 正しい言葉遣いと挨拶・礼節を心がけ、服装・身だしなみを常に整える。
- (4) 規則正しい生活をし、物品の適切な使用・整理整頓、安全、時間管理を心がける。
- (5) 他者と協働し、学びを生かして社会貢献を行う。

2 充実した学校生活を送るために

(1) ルールの遵守

- ① 本校の生徒である自覚と誇りをもち、法律やルールを守り、責任ある行動をすること。本校の品位を落とす言動は慎むこと。

(2) 自分と他者の尊重・適切な判断

- ① 学校内外を問わず、暴力や粗暴な行為、暴言、いじめやいじめにつながる行為、薬物乱用、飲酒、喫煙、その他、法令に反しないこと。また、本人の許可なく、他人や他人の物品等の写真を撮影、音声などの録音はしてはならない。他人や学校その他団体等の映像・音声等をSNSなどインターネット上に許可なく掲示したりメール等で送信したりしないこと。
- ② インターネット上に個人が特定される情報や学校に関する情報を書き込まないこと。また他人や団体を誹謗中傷するような書き込みをするなど他の人権を傷つけないこと。
- ③ いじめ、暴力、性的な被害やそれに準ずるとされる行為の被害やトラブル等に巻き込まれた際は、すぐに教員に申し出ること。

(3) 自転車利用について

- ① 自転車による通学を希望する場合は、保護者の許可を得た上で、法令により定められた自転車損害賠償保険に必ず加入し、「自転車通学許可願」を事前に提出すること。所定の登録シールを自転車の定められた箇所に貼ること。
- ② 登下校時は交通ルールを守り、ヘルメットを着用し、安全運転を心がけること。自転車での二人乗り、並列走行、傘さし運転、イヤフォン・携帯電話・スマートフォン等の使用、歩行者等に迷惑をかける行為はしないこと。

(4) アルバイトについて

アルバイトを希望する者は、家計の補助を目的とし、仕事内容・時間・場所等を保護者とよく相談し、保護者の許可を得ること。また「アルバイト申請願」の用紙を生活指導部より受け取り生活指導部に提出すること。

(5) 制服について

本校は、家庭分野・福祉分野のスペシャリストとして、社会で貢献できる人材の育成を目指しており、本校の教育活動をとおり、地域や専門家など外部の方と接する機会が多くある。服装については、清潔感と品を保つよう心がけること。

本校の制服およびその他の身に着けるものなどについて次に示す。

【制服】

	スラックススタイル	スカートスタイル
正装	指定の白長袖シャツ ネクタイ スラックス プレザー 靴下 (指定のベスト、 黒または紺色の無地セーター)	指定の白長袖シャツ リボン スカート プレザー 靴下・タイツ (指定のベスト、 黒または紺色の無地セーター)
夏季略装 5月～10月	指定の白長袖または半袖シャツ スラックス 靴下 (指定のベスト、 黒または紺色の無地セーター)	指定の白長袖または半袖シャツ スカート 靴下 (指定のベスト、 黒または紺色の無地セーター)

*5月～10月は夏季略装期間とし、プレザー、ネクタイ、リボンを着用しなくてもよい。

ただし、儀式・式典等では正装が必要な場合がある。

*スカートの丈を切るなど、制服に加工を行った場合、再購入の場合がある。

【その他】

	留意点など
靴下・タイツ	靴下：紺色または黒色 くろぶしが隠れる丈の靴下 タイツ：黒色または素肌に近い色の無地
靴	ローファーまたは運動靴（レインブーツ・雨靴は必要に応じて可）
かばん	制服にふさわしいもの
防寒着（コート等）	制服にふさわしいもの

【本校は一足制である】

校内の床を著しく傷つけるおそれのある靴等の使用は禁止する。グラウンド用運動靴、体育館のもの（体育館ばき）を区別して用いること。

ア 体育着、体育館ばき（体育館用運動靴）、実習着は指定のものを着用することとする。
なおグラウンド用運動靴を各自が用意すること（推奨品あり）。水着・水泳帽子については体育の授業等で連絡する。

イ 衛生エリア及び特定の教室等での履物については別途、担当教員の指示に従うこと。
衛生エリアに指定の履物以外で入ってはならない。

ウ 頭髮は、清潔な髪型とし、加工や特異な髪型（染色、脱色、パーマ等）はしない。

エ アクセサリーなどの装飾品は身につけない。化粧はしない。

オ 登下校は制服とする。

(6) 物品の適切な管理、時間の管理等について

- ① 概ね8時以降に登校し、学習等が終わり次第、午後4時55分までに下校すること。
- ② 授業には、遅刻をせずに積極的に参加すること。また、教員の指示に従い、他者と協力し、臨むこと。
- ③ 授業中は原則として携帯電話・スマートフォンの電源を切る、またはその授業でのルールに従うこと。
- ④ 実習授業が多く特別の課題・レポート・作品提出等を求められることが多いが、必ず提出期限を守ること。
- ⑤ 実習中等は危険を伴う場合もあるので、教員の指示に従うこと。
- ⑥ 施設、設備、備品等あらゆる物品を大切に、破損、汚損、移動、紛失をしてはならない。万が一、破損等があった場合には、速やかに届け出ること。
- ⑦ 身の回りの整理整頓と衛生を心がけ、校内の美化・環境維持に努めること。教室内の指示された収納ロッカーを使用し、教室の机の中には私物を置かない。ロッカーは必ず施錠をすること。
- ⑧ 所持品には記名をすること。貴重品は常に身に付け、金銭や物品の貸借、売買、交換をしてはならない。また、学習に不必要な物品等は持参しないこと。
- ⑨ 校内において金銭や物品を遺失または拾得した場合は、速やかに生活指導部に届け出ること。
- ⑩ 校内における集会、ポスター等の掲示、パンフレット等の配布を行う際には生活指導部の許可（場合によっては学校長の許可）を受けること。
- ⑪ 「立入禁止」されている場所に許可なく入ってはならない。また、許可なくエレベーター等、校内の施設・物品を使用しないこと。
- ⑫ 昼食は弁当を持参し、決められた時間内に決められた場所でとること。また、ごみは決められた方法で処理すること。

(7) 他者との協働、学びを生かした社会貢献

【委員会活動】

委員会は、1年間をとおして行うこととする。本校の委員会活動を以下に示す。

ホーム委員会 美化委員会 保健委員会 図書委員会 放送委員会 選挙管理委員会 体育行事委員会 北桜祭実行委員会 広報委員会
--

各種委員会の役割は、生徒会会則に示す。

【部活動】

本校の教育活動を進めるうえで、部活動の加入を推奨する。本校における部活動を以下に示す。なお、部活動の活動目標・活動方針、活動日、活動時間等については、各部活動で

確認を行うこと。

＜運動部・文化部・専門部の目標＞

運動部は、スポーツ等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものとする。

文化部は、文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものとする。

専門部は、本校専門学科・科に関係する、保育・栄養・調理・福祉に関する部活動を位置づけ、特色化を図ることとする。

＜運動部＞

男女サッカー、男女バドミントン、男女バスケットボール、女子バレーボール、テニス、卓球、ダンス、剣道、男子バレーボール、陸上競技（同）

＜文化部＞

吹奏楽、軽音楽、アート、演劇

＜専門部＞

料理、社会福祉

3 図書館の利用について

（１）開館時間は、月曜から金曜までの８：３０分から１６：４５までとする。臨時の休館日、閉館日、長期休業日については別途、連絡する。

（２）館内での閲覧は、原則として自由である。ただし、以下の事項を厳守すること。

- ① 館内を汚したり散らかしたりしない。
- ② 貸し出し期限を守る。
- ③ 資料は大切に扱う。
- ④ 資料は定められた返却場所に戻す。
- ⑤ 正規の手続きなく、資料を館外に持ち出さない。
- ⑥ 飲食物は持ち込まない。
- ⑦ 迷惑になるような大声を出さない。

（３）貸し出しについては以下の事項を厳守すること。

- ① 原則として１人５冊まで。期間は２週間。
- ② 期間延長は再貸し出し手続きによる。
- ③ 雑誌はバックナンバーのみ貸し出す。
- ④ 書き込み、ふせん等をしない。
- ⑤ 借りた本を紛失、破損した場合は、弁償の対象となる。

（４）その他

図書館オリエンテーションで詳細を示す。

4 高校卒業後の希望進路を実現するために

(1) 上級学校への進学に向けて

①学びの内容を確認する ～大学と短期大学、専門学校の違いを知る～

学校の種類によって学ぶ内容は異なる。大学では学術的な研究を行いつつ、専門以外の教養についても学ぶ。短大では幅広い教養を身に付けながら実践力を養う。専門学校では職業教育を受けながら実践力の養成を目指す。将来設計に合わせて、学校を選択しよう。

②実力を最大限に発揮できるベストな入試方法を考える

大学・短期大学の入試は、「総合型選抜」、「学校推薦型選抜」、「一般選抜」に分けられる。どのような入試方法を選ぶかは重要なポイントとなる。重視されるのは面接なのか、それとも筆記の結果なのか、可否を分けるポイントはさまざまである。

本校では、総合型選抜や学校推薦型選抜で進学する場合がほとんどである。その場合は前提条件として、高校での良好な出席日数、高い評定が特に求められる。面接試験・小論文・プレゼンテーションなどでは、「興味や関心、主体的に取り組んだこと、身に付けた技術・能力、学習や活動の成果」などを具体的に述べたり示したりすることが求められる。自分の希望を考えながら志望校を選んでいくのと同様に、自分の適性を踏まえて自分に合った入試方法を選択しよう。

(2) 一般企業等への就職に向けて

就職活動でも、面接試験等で本人が主体的に何を学び、何を成し遂げたかが評価される。日頃の学校生活と学びを大切にし、自身の成長を記録しておくことが後々役に立つ。

(3) 学習、委員会・役員・部活動等、資格・検定、課外活動等の記録について

手帳や「進路の手引き」(別紙)等を活用し、高校3年間の学習や様々な活動について記録しておこう。また成果物は保存しておこう。応募書類の作成やプレゼンテーション等、進路活動では記録や成果物が必要となる。